



徳島市文化センター

文化センターの耐震診断に予算(966万円) 診断結果を受けて、耐震リニューアルを

九月議会の『防災対策特別委員会』私が質疑した一つが文化センターの耐震診断費用(九百六十六万円) 本会議の代表質問(船越議員)での質疑も併せ、いろんなことがみえてきました。

この「文化センターの耐震診断」ですが、私も日本共産党徳島市議団が繰り返し求めていたもの。今まで徳島市は耐震診断もせず、「文化センターは老朽化したから(壊す)」と、新町西再開発のホール建設計画を強引に推進してきました。今回の耐震診断費用の予算化は、市民世論の高まりと、議会での追及を受けてのものです。

今、新町西再開発(ホール)を白紙撤回し、「文化センターを耐震リニューアルし長持ちさせ、ホール建設積立金(現在十六億円)を増やし、それを元手に旧動物園跡地に立派なホール建設を」の運動が始まっています。その「かなめ」が「文化センターの耐震診断」 質疑の中心は

耐震診断の期間は

再来年の三月末まで

耐震診断のスケジュールは、九月議会で予算化されたら、まず業者を選定し、来年一月から耐震診断を始めるが、結果が出るのは再来年の三月頃」と答弁 耐震診断は、これから一年半ほどかかることが明らかになりました。なお、診断期間中、文化センターは閉館しないで、合間を見つけて行っていくとのこと。

診断結果が出るのはIS値と

概算補強案、概算工事費

「IS(アイエス)値」とは、「構造耐震指標」で、「地震にどれだけ耐えられるか」という値(あたいたい)です。IS値が「0.六以上」なら「危

険性は低い(一応安全)」「0.三以上で0.六未満」なら「倒壊する危険性がある」」「0.三未満」なら「倒壊する危険性が高い」とされています。

文化センターの耐震診断で結果が出るのは、まずIS値 この「値」が「倒壊する危険性がある」とか「危険性が高い」場合は、概算補強案と概算工事費が出る。これが「文化センターの耐震診断」であることが、議会の質疑を通して明らかになりました。



老朽化で危険な値が出てても 耐震リニューアルできる

要は、文化センターが老朽化していても、危険な値が出てても、それを「安全な値」にまで高めるための「概算補強案」と、その「概算工事費」を出す。それが「文化センターの耐震診断」の中心で、文化センターを耐震リニューアルする「出発点」になります。



文化センターより古いホールが 次々と耐震リニューアル

文化センターは築後五十年(一九六三年四月完成)経っており、一五五席のホールですが、全国には文化センターと同程度の規模で、文化センターよりも古いホールが十五あり活用されています。

その十五ホールのうち五ホールが、すでに耐震リニューアルされ(または工事中)立派に生まれ変わっています。

私はその内の四ホールを視察してきました。愛媛県の今治市、新居浜市、京都府の福知山市、鳥取県の米子市です。

今治市、新居浜市では、ともに

ホールの外に楽屋を増築していただきました。文化センターより半年古い福知山市では、特に力を入れて改修したのは音響設備 改修後、



音響設備を一新した福知山市のホール

最高級ピアノ(スタンウェイ)も購入し、ピアノリサイタルやオーケストラコンサートも開催できるまでに生まれ変わっていました。また、トイレはもちろんのこと、二階へのエレベーターを設置するなど、市民の声が活かされたりリニューアルが行われていました。

鳥取県米子市

診断で「倒壊する危険性が高い」 ホール(公会堂)を耐震リニューアル

徳島市文化センターと同程度の規模で、文化センターより五年も古いのが鳥取県米子市のホール(公会堂)です。このホールは、耐震診断で「IS値〇・一五」「倒壊する危険性が高い」という結果が出されましたが、米子市が選択した道は

「倒壊する…」結果が出て

一二年間ほど使用停止に

構造耐震指標のIS値が「〇・三未満なら倒壊する危険性が高い」んですが、米子市の診断結果は「IS値〇・一五」まさに「最悪の値」でした。そこで米子市は、ホールを使用停止にしました。使用停止した期間は約二年間でした。



米子市のホール

「約十四億円で耐震改修できる」

概略補強案、概算工事費を出す

米子市のホール耐震診断では、IS値の他に、概略補強案に基づく概算工事費が出されています。「ホールの補強工事費は四億四千万円」「舞台装置、エレベーター改修等」内外装改修工事は三億千五百万円」「(舞台照明改修、空調設備改修等)設備改修



工事は五億七千七百五十万円」で、「合計十三億六千五百万円(約十四億円)」かければ、「安全な建物に改修できる」案を提示しています。また、概略補強案と併せ、「目標耐用年数七十六年」も提示しています。「倒壊する危険性が高い」ホールですが、しっかりと改修を行えば、「あと二十年程は長持ちさせられる」ということです。

厳しい財政状況の中、最適なのは 改修でホールを長持ちさせること

米子市では、「ホールをどうするか?」等を問うたアンケートを行うなど、「市民の声」を聞いて



耐震リニューアル中の米子市ホール

そして市長が「米子市公会堂のあり方に対する市長の判断」を、市民に示しています。

そこに述べられているのは、現在の米子市にとって、公会堂は必要最小限の改修を行って現施設をできるだけ長く使用することが、最も適当であると判断。これは、大変厳しい財政状況の中で熟慮を重ねた上での判断でございます」と。

音響、楽屋、舞台、 客席、トイレなど

市民が要望…ほとんど実現

「市民の声を聞いて進める」米子市のホール改修。その一つが「リニューアルの中身」です。

「米子市公会堂利用促進の会」が要望書を提出していますが、会の話では「三十六項目を要望したんですが、そのほとんどが実現できている」とのこと。その「要望の中身」ですが、音響・演劇設備、リハーサル室を含む楽屋、搬入口、舞台、客席、トイレ、エントランス など、チャイルドルームや喫茶コーナーの設置も要望しています。

徳島市文化センターの耐震診断結果が出る再来年三月まで、新町西再開発のホール建設は止めるべき

この九月議会の質疑で明らかになったのは、文化センターを耐震診断すれば、ホール建設の十分の程度の費用で耐震リニューアルできることが判明すること。その結果を待たずに「文化センターは老朽化したから(壊す)」と決め付け、「新町西再開発のホール建設推進する」ことは許されません。